

実践のまとめ（小学校6年 外国語科）

令和7年11月18日第6校時
指導者 新発田市立二葉小学校
教諭 井口 尊紀

1 研究テーマ

相手意識をもち、主体的に話す活動に取り組む児童の育成 ～市内ALTとの交流に向けた言語活動を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成すること」を目標としている。また、「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」（2017年 文部科学省）には、言語活動とは「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動である」と書かれており、小学校から高校まで継続することの重要性が示されている。

昨年度の研修（1年次）では、「話すこと」に焦点を当てて言語活動を行った。ALTを対象に小学校の思い出を伝える活動を行い、児童は意欲的に活動に取り組む様子を見せた。興味深いことに、「話すこと」と同時に「聞くこと」「読むこと」に対する評価の向上も見られた。相手とのやりとりを通して、聞き手や読み手としての意識が高まったと思われる。

今年度新たに赴任した学校では、英語専科として週2回の授業を行っているが、その2回とも常にALTとのティームティーチングを行える恵まれた環境にある。自校ALTに加え、同じ市内に勤めるALTにも協力を仰ぎ、交流の場を設定し、「話す活動」を中心とした言語活動をさらに活性化させたいと考えた。より多くの英語話者と学習することにより、英語を使う必然性があること、学習課題の設定に関わりをもってもらうことなど相手意識やモチベーションの高まりを期待して、主体的に言語活動に取り組む児童の育成を試みる。

(2) 研究テーマに迫るために

① スモールトーク

継続的・系統的にスモールトークを行い、話すことに慣れるとともに、語彙や基本表現の定着を図る。

② 市内ALTとの交流場面の設定

学習課題について市内ALT（自校を含む9人）の協力を仰ぎ、目的・場面・状況を設定する。ALTとの交流を目標として、より相手意識をもち、活動に対して丁寧に取り組む姿を期待する。

③ ICTの活用

タブレットによる資料作成や録画・録音機能を使い、交流や評価に活用する。

(3) 研究テーマにかかわる評価

①授業後のアンケート結果をもとに、前述の手立てが有効であったかを見取る。
(有効と判断した児童が全体の80%以上)

②事前事後に学習アンケートをとり、授業への取組などに関して児童の変容を見取る。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

UNIT6 I want to go to Italy. (Here We Go!6 光村図書)

(2) 単元の目標

- ① 市内ALT（自校含む9人）の「おすすめの国や地域の旅行プランを発表してほしい」というリクエストに応えるために、旅行会社の人になり、その魅力を伝えることができる。
- ② 旅行プランを提案するために、その国や地域で飲食できるもの、見どころ、土産など、そこでできることについて、自分の考えや気持ちを交えながら伝えることができる。
- ③ 自分の行きたい国や地域、そこでしてみたいことを伝えるための語句や表現に十分慣れ親しみ話し合うことができる。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・ In ～, you can … や Where do you want to go? I want to go to… などの表現や関連語句を理解している。・ 世界の国でできることや行きたい国とその理由について聞き取る技能を身に付けている。・ その国でできることについて話す技能を身に付けている。・ 自分が行きたい国とその理由について伝え合う技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none">・ 観光案内の音声から、国名やその国でできることを聞き取っている。・ 世界の国々の魅力を伝えるために、その国でできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて紹介している。・ 自分たちが行く国を決めるために、行きたい国とその理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。	<ul style="list-style-type: none">・ 観光案内の音声から、国名やその国でできることを聞き取ろうとしている。・ 世界の国々の魅力を伝えるために、その国でできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて紹介しようとしている。・ 自分たちが行く国を決めるために、行きたい国とその理由について、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

(4) 単元と児童

① 単元について

本単元では、児童や教師が行きたい場所やそこでしたいことを伝え合う言語活動を設定する。世界に目を向けることは、それぞれの興味関心が表出しやすい題材であり、英語学習に対する動機付けとしても適した単元である。児童同士のやりとりも行いつつ、海外経験や知識が豊富なネイティブスピーカーである市内ALT（自校含む計9人、全て女性）に協力を仰ぎ、ALTの「こんな場所に行ってみよう。」というリクエストに児童が旅行会社のプランナーとして、おすすめの国とそこでできることをグループで伝える活動を設定する。英語を使う必然性を担保しつつ、意欲の向上、複数のテーマから題材を選択し多角的にものごとを考える力の育成、英語話者に英語でものごとを伝える喜びを味わわせ、主体的に言語活動に取り組む児童の育成をねらいとする。

② 児童の実態

男女ともに明るい雰囲気をもつ児童が多く、落ち着いた態度で協力して学習活動に参加することができる。1学期に行った独自の学習アンケートによると、多くの児童が、授業を楽しみ、意欲的に学習に取り組んでいる様子が伺えた。知識・技能面に関しては、理解力に富み英語を得意とする児童がいる一方、学習内容の理解に時間を要する児童が混在している。領域別の回答では、約半数の児童が「話すこと（発表）」に苦手意識を感じていると回答した。次いで「話すこと（やりとり）」が多かった。理由としては、「人前では緊張して恥ずかしくなってしまう」という記述が見受けられた。少しずつ音声や応答、語彙の課題をクリアしていき、話すことに対して自信をもたせたい。

5月に進学先の中学校のALTに向けた自己紹介ビデオを作成し、自分のことについて英語で伝える活動を行っている。6月には市内ALTの内1人、9月には中学校区の英語担当教師2人に授業に参加してもらってコミュニケーション活動を行うなど、第三者と英語で話す経験を積んでいる。この単元では、話す活動にさらに意欲的に取り組むことを期待し、市内のALTからのビデオメッセージを通して言語活動を設定する。英語を用いて自分たちの考えや意見が相手に伝える喜びや楽しさを味わわせたい。

(5) 単元の構想

次	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1	・ 市内ALTの動画を視聴し、ゴールのイメージをもつ。	◎市内ALTからのメッセージビデオを見て、単元のゴールのイメージをつかもう。	・ 記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
2	・ 本単元のトピックや語彙に触れる。	◎行きたい国やしたいことを英語で伝える言い方を知ろう。	
3	・ 世界の国でできることを伝える言い方を知る。 (自校ALTで練習)	◎ALTが行きたい国を考えて、そこでできることを伝えてみよう。	

4 本 時	・他校ALTのリクエストについて選択し、内容を構成していく。	◎他のALTのリクエストを受けて、おすすめの国と活動を考えよう。	
5	・できることにもう一言を付け加えてまとまりを出す。	◎おすすめの旅行プランの魅力が相手に伝わるように工夫しよう。	
6	・他の班との交流をとおして、発表内容の見直しや改善を図る。	◎班同士で旅行プランを伝え合おう。	思考・判断・表現 ・発表内容がより良くなるために、何が大切か考え、表現しようとしている。 【行動観察、ワークシート記述分析・振り返りシート】
7 ・ 8	・世界の国々の魅力を伝えるために、旅行会社の人になって紹介する。（発表・録画）	◎ALTに向けて旅行プランを伝えよう。	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学ぶ態度 ・他者に配慮しながら簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝えようとしている。 【行動観察、ワークシート記述分析・振り返りシート】
9	・学習を振り返る。	◎旅行プランの発表や今までの取組について振り返ろう。	主体的に学ぶ態度 ・テーマについて相手意識をもって発表を行ったか。 【振り返りシート】

4 本時の展開

(1) ねらい

ALTの興味関心にそって、おすすめの国やそこでできることを表現できる。

(2) 展開の構想

授業全体の流れとしては、どのように表現すれば、おすすめの旅行プランを簡潔に伝えられるか、ALTのリクエストを踏まえて、クラス全体で表現方法を学習する。観光名所、食べ物、アクティビティなど、班で意見を出し合い、まとまりのあるプランを練り、発表する。

冒頭に、前時で学習したおすすめの場所やアクティビティを紹介する表現を確認する。

次に、各班で自分たちが選んだALTからのメッセージを再度視聴し、内容を確認した後、班員それぞれが調べてきたことを発表し、おすすめの場所やそこでできることを共有する。班で伝える内容や情報を検討し、発表の土台を作成する。各班、紹介する国は違っても、共通の課題に対して中間指導をはさみ、さらに内容を推敲する。

タブレットを用い、単語カードなどを使い旅行プランを簡潔にまとめ、班で練習を行う。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ・予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点	
5	○あいさつ ○基本表現を教師に続いて読む。	○あいさつ ◎前時の振り返りを行い、基本表現の復習をする。 (例) In Australia, you can visit Opera House. You can enjoy many events. You can see koalas and kangaroos. You can enjoy swimming at White Heaven Beach.	◇前時では自校ALTに向けて、オーストラリアでできることを紹介する表現を学習している。 ◇「(In 場所,) you can ~.」を基本表現とする。	
				導
4	○ALT のビデオを再度視聴し、興味関心のある場所やしたいことについて内容の確認をする。	◎ALT が興味関心のある場所やしたいことについてビデオを改めて視聴させ、めあてなどを確認する。	◇前時までに ALT のリクエストを一度聞いている。(録画データも配り、繰り返し視聴可)	
				1
				6
12	○各班で、各自が調べてきたことを英語で紹介し合う。	◎旅行プランに必要な情報を整理させる。 ・C1: In Canada, you can see the Northern Lights. ・C2: In Canada, you can eat delicious salmon. ・C3: In Canada, you can eat BBQ salmon. ・C4: In Canada, you can see beautiful sunset in Sunset Beach.	◇前時までに ALT のリクエストを一度聞いている。(録画データも配り、繰り返し視聴可)	
				展開
12	○各班で、おすすめの国や食べ物や見どころなどについて意見を出し合い、内容を整理していく。	・ただのサーモンではなく、C3 さんの言った BBQ サーモンはどう？ ・有名なレストランを紹介しよう。 ・夕日が見られる場所は、他にあるかな。 ・In Canada って何回も言う必要あるかな。In バンクーバーとか、都市の名前とかに置き換えてみては？	思・判・表 (形成的な評価) □ALTのリクエストに寄り添い、相手意識をもって、内容を考えているか。【行動観察・ワークシート・振り返り】	

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ・予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点	
展開	9	○中間指導を活かしながら、情報を英語で簡潔にまとめる。	◎やりとりの中で生まれた気づきや質問を共有し、中間指導を入れる。 ◎各班で話し合った内容を、タブレットを活用し、簡潔にまとめ、発表の土台を作成させる。	○意見が出にくい時は、机間指導で見取った様子を例に挙げるなどして、アドバイスをを行う。 ○タブレットの送受信機能を使い、代表児童のタブレットに情報を集約できるようにしておく。(使用は班による。)
	3	○代表の班は、発表を行う。	◎代表班を選び、発表をさせる。 ・ In Canada, <u>you can see</u> the Northern Lights in winter. ・ <u>You can eat</u> delicious BBQ salmon at The Salmon House. ・ In Vancouver, <u>you can see</u> beautiful sunsets at Sunset Beach and English Bay Beach.	◇基本表現を効果的に活用しているか、リクエストに応じているか、簡潔な内容になっているか、などポイントをおさえる。
まとめ	5	○振り返りシートを記入する。 ○あいさつ	◎各班の活動の取り組みや学びを共有する。 ・発表の型が分かった。 ・先生やクラスメートに内容がしっかり伝わってうれしかった。 ・担当するALTの先生に伝わるように作成して練習していく。 ○あいさつ	○本時の活動を活かし、今後の発表内容をさらに発展させていくよう促す。

(4) 評価

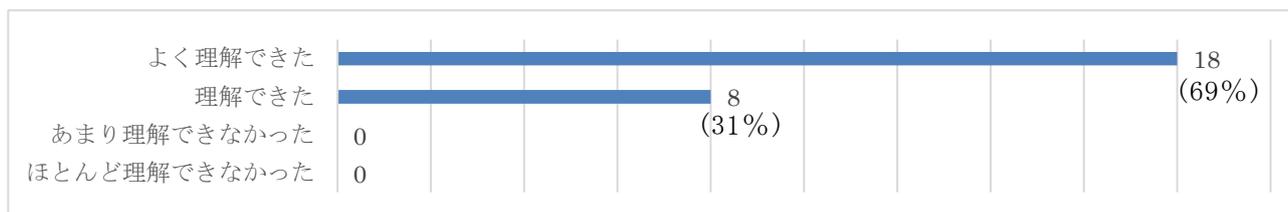
- ・おすすめプランを伝えるのに役立つ表現を理解することができた。【行動観察・振り返り】
- ・ALTのリクエストに沿うような内容を考え、作成することができた。【行動観察・振り返り】

5 成果と課題

(1) 児童のふりかえり

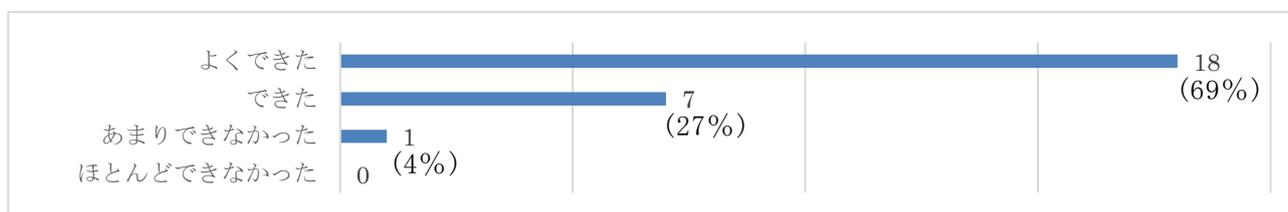
① 授業後のアンケート結果と記述回答（一部抜粋）〈回答数26人〉

質問1 おすすめのプランを伝えるのに役立つ表現を理解することができましたか。



- ・ you canやvisitなど発表に必要な単語をスラスラ言えるようになった。
- ・ 前よりも詳しくそこでできることが言えるようになった。
- ・ 自分の担当する観光地についての単語が分かった。

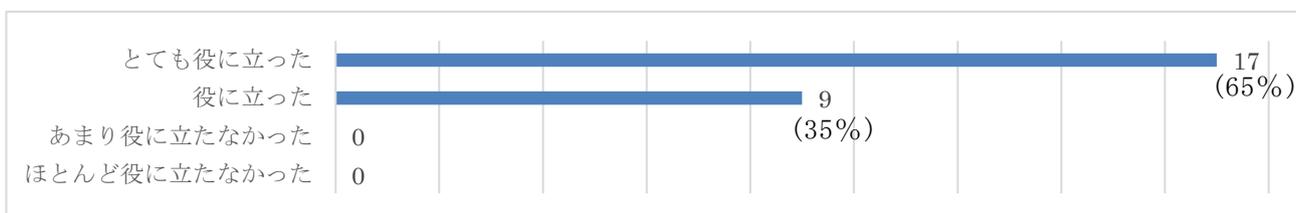
質問2 ALTの先生のリクエストにそった内容のプランを作ることができましたか。



- ・ 班のみんなで先生のリクエストをよく確認して作ることができました。
- ・ 先生のリクエストに応える文を作ることはできたが、もっと情報量を付け足していきたい。

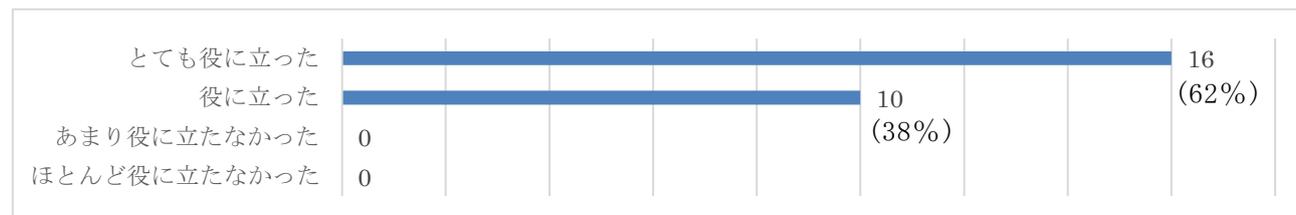
② 単元に関するアンケート結果と記述回答（一部抜粋）〈回答数26人〉

質問1 スモールトークは、語句や基本表現の定着に役立ちましたか。



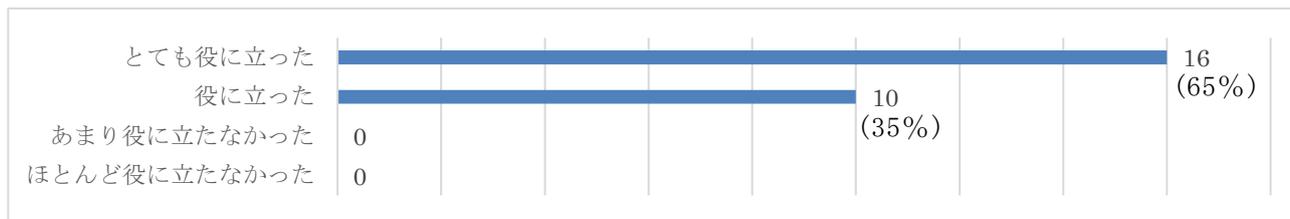
- ・ スモールトークを頑張ったので、ALTの先生たちのビデオの内容が理解しやすかった。
- ・ 最初は、カタコトだったり棒読みだったりしたけど、友達と練習したり自宅で練習したりしていくうちに、言えるようになっていった。

質問2 学習課題に市内ALTが関わってくれたことは、相手意識の向上に役立ちましたか。



- ・ 他の学校の先生と関わる機会はなかなかないし、相手がいることで本格的に発表ができた。
- ・ ALTのリクエストに応えるという目的があったため、より紹介する気持ちが高まったし、英単語などもたくさん覚えることができた。

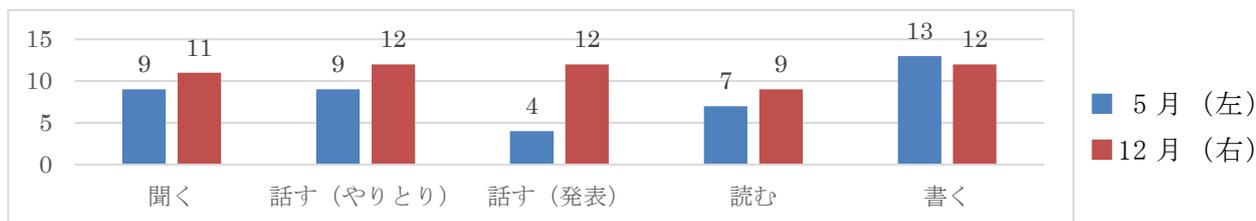
質問3 タブレットの活用は、主体的な学習の役に立ちましたか。



- ・ALTの先生からのビデオやメッセージ文を見返すのに活用できた。文章を見直したり、修正したりタブレットの機能を有効活用することができて便利だと思う。
- ・画像や情報集めで非常に役に立った。リハーサルで声量やジェスチャーを見返せた。

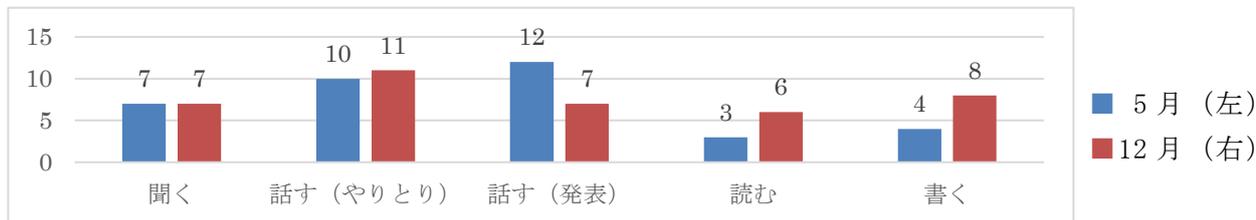
③ 学習アンケート結果と記述回答（一部抜粋）〈回答数 5月25人 12月27人、複数回答可〉

質問1 得意な活動、または、好きな活動はどれですか。



- ・英語を友だちや先生とやりとりできると楽しいし関係が深まる。（話すこと やりとり）
- ・ALTの先生（他校）に紹介するときには上手くできて楽しかったから。（話すこと 発表）
- ・班のみんなで協力して発表することは、達成感があって楽しい。（話すこと 発表）

質問2 あまり得意でない活動、または、苦手意識のある活動はどれですか。



- ・途中で何を話すか分からなくなるときがあつて焦るから。（話すこと やりとり）
- ・複雑な読み方が色々あつて、上手く読めないときがよくあるから。（読む）
- ・英単語のスペルを覚えるのが難しい。（書く）

質問3 市内のALTの先生にお勧めの国やそこでできることを紹介する活動に対して感想や考えを聞かせてください。（記述回答）

- ・伝える相手がいるので、意欲的に取り組むことができた。
- ・ALTの先生たちの観光サポートになると嬉しい。伝わりやすさを重視することができた。
- ・スピーチをすることで英語を人前で話す能力が上がったと思いました。
- ・ALTの先生に伝わるように情報集めをしてスライドを作ったり、みんなの前でジェスチャーも入れたりして、分かりやすく発表することができた。
- ・みんなで色々なアドバイスを出し合っただけで楽しかったから良かった。また、F先生（自校ALT）のおすすめ紹介を参考にしたら、みんなが分かりやすい紹介文になった。
- ・調べ学習をして、その国の文化や風習、暮らしなどについて興味をもつことができた。
- ・今までの発表活動の中で、一番うまくできたのでとても嬉しかったです。

(2) 実践の成果と今後の課題

本時においては、個人が調べてきたことや表現を生かしつつ、班で協働して原稿をまとめ上げ、発表練習を行うことができた。タブレットを効果的に用いて原稿や写真の編集、班員同士での原稿や情報のやりとりを行い、原稿を作成することができた。代表班による模擬発表を聞き、内容や伝え方について大切にしたいポイントをクラス全体で共有することができた。

単元に関するアンケートでは、市内ALTが学習課題に関わった有効性に対して回答者全員が肯定的（「とても有効だった」62%、「有効だった」38%）な回答をしている。単元全体では、「相手意識」をもって「主体的」に学習に取り組む点に関して、ALTという英語話者から「おすすめの国とそこでできることを紹介してほしい」という明確な目的を与えられたことで、児童はモチベーションを高い状態で維持することができた。授業の様子や普段の振り返りシートからも「先生の役に立ちたい」、「自分たちの英語表現が通じたら嬉しい」、「こういう場所を紹介したらどうかな」など、発表に向けて、児童が活発に意見交換を行う姿が多く見られた。伝える相手や目的が明確であること、学習内容を踏まえつつも創造的な活動であることが児童の自走する姿を後押ししたと推察される。

自校ALTに向けた発表を土台とし、新しく選んだALTへの発表を行う活動の流れも奏功し、児童は見通しをもって活動を行うことができた。班同士の練習では、言語面、表現面など様々な角度から学び合い、よりよい発表を目指して発表当日を迎えるまで何回もリハーサルを行った。タブレットによるスライドの提示や録画機能などを駆使しながら、各班が主体的に準備を行うことができた。

学習アンケートでは、「話すこと（発表）」について特に大きな向上が見られ、単元の目的や目標が反映された結果となった。実際にALTからの返答ビデオを視聴して、自分たちの発表が通じて喜んでもらったことや努力を褒めてもらったことにより、児童は大いに達成感を味わうことができた。この活動を通じて市内ALTとの協力体制を築けたことも大きな財産となった。

課題としては、班単位の活動なので、個人がどれだけの知識や技能を得たかが不明瞭になりやすい点が挙げられる。また、今回は主にタブレット上で言語活動を行い、実際に紙ベースに英語を書く活動を行うことはなかった。班で作った原稿を個人でも読んでみたり、実際に紙に書き起こしてみたりすることで、さらに効果的なインプットやアウトプットが期待できる。他技能や領域とのバランスを考えながら指導を工夫していきたい。

学習アンケートでは、「話すこと（発表）」に関して改善が見られたが、「話すこと（やりとり）」とともに依然として他項目より課題を感じている児童が多い。スモールトークの有効性については肯定的な回答が多かったが、学習内容がさらに定着するように理解度や到達度を明確にするなどして、より工夫した活動を目指したい。

また、アンケートの5月と12月を比較すると、読むことや書くことについては苦手意識のある活動であると答えた児童が増加している。これは、1学期に比べると学習内容が増えたことが影響しているとともに、読むことや書くことに関しての課題意識をきちんともつようになったからだと考えられる。今後も児童の実態やアンケートの記述、普段の振り返りシートなどを参考に、児童自らが課題を設定し、課題解決に向かっていけるような授業になるように実践を継続していきたい。

6 資料（単元構想図）

新発田市立二葉小学校 第6学年1組 外国語科学習指導案
 令和7年11月18日（火）5校時 授業者 教諭 井口 尊紀

【単元名】「Unit6 I want to go to Italy. ～市内ALTにおすすめの国を紹介しよう！～」

【単元目標】

- (1) 市内ALT（自校含む）の「おすすめの国や地域の旅行プランを提案してほしい」というリクエストに応えるために、旅行会社の人になって、その魅力を伝えることができる。
- (2) 旅行プランを提案するために、その国や地域で飲食できるもの、見どころ、土産など、そこでできることについて、自分の考えや気持ちを交えながら伝えることができる。
- (3) 自分の行きたい国や地域、そこでしてみたいことを伝えるための語句や表現に十分慣れ親しみ話し合うことができる。

単元における「見方・考え方」を働かせた姿を具体的な姿

市内ALTのリクエストに応え、実際に行ってみたくなるように、旅行プランを提案することを通して、世界の国々や地域についてふれ、自分の考えや気持ちを交えながら、おすすめの理由等を詳しく話すことができるようにする。

<教科書の指導計画例>と<単元構想>



ALTの先生たちは、何に興味関心があるのかな。どの国を紹介できそうかな。	1	市内ALTの動画を視聴し、ゴールのイメージを持つ。	A先生はおいしい食事に興味があるようだ。B先生は伝統的な建物に行きたいようだ。	単元ガイダンス
クラスみんなは、何に興味関心があるのかな。お互いの意見を聞いてみよう。	2	本単元のトピックや語彙に触れる。	クラスみんなやALT（自校）は、どんなところに行きたいのかな。お互いに聞いてみよう。	
ALT（自校）の先生は、どんなところに行きたいのかな。おすすめの国やできることを考えてみよう。	3	世界の国でできることを伝える言い方を知る。（自校ALTで練習）	ALT（自校）の先生に、オーストラリアでできることを紹介してみてもいいかな。	一斉・自走・振り返り
他のALTの先生たちに向けて、おすすめの国やその情報を調べて伝えてみよう。	4	他校ALTのリクエストについて選択し、内容を構成していく。	調べた料理の味とか、町の様子なども伝えてみよう。何て言えばいいのかな。	
紹介するために、内容をまとめていこう。	5	できることにもう一言を付け加えてまとまりを出す。	ALTの先生の興味関心にそっているか確認しよう。分かりやすい表現になっているかな。	
班同士で交流して、内容や伝え方について見直してみよう。	6	他の班との交流を通して、発表内容の見直しや改善を図る。	Bさんの班は、内容も簡潔だし、自分達の考えや思いもよく伝わって来るね。	
旅行会社の人になって、おすすめのプランを伝えてみよう。	7	世界の国々の魅力を伝えるために、旅行会社の人になって紹介する。（発表・録画）	どのように発表したら、より伝わりやすいかな。今までの学習や練習を生かしてみよう。	
ALTの先生たちからフィードバックをもらう。	8			
	9	学習を振り返る。	私たちの紹介は、どのように伝わったかな。ALTの先生たちが気に入ってくれるといいな。	

① 児童生徒と共につくる「単元ガイダンス」

【見通す力】

自校のALTも含め、市内ALT（9人）から、「こんな国に行ってみたい。こんなことをしてみたい」という提案を受けて単元をスタートします。児童は、ALTのリクエストに応えるために、よりよい発表を目指し試行錯誤していきます。クラスメートや教師との対話を通して、より適切な表現を身に付け、発表内容を練り上げていくイメージを児童と共有、確認しながら単元のゴールへと向かいます。

○ 課題・テーマ

市内ALTの興味・関心に応じて、旅行会社の人になったつもりでおすすめの国を紹介しします。

○ 学習方法・学習時間

ALTによって用意された多くの選択肢の中から、児童が主体的に国や地域を選び、調べた情報をもとにグループ毎に発表活動を行います。

○ 評価

児童一人一人が、学習の過程を振り返ったり到達度を確認したりできるように振り返りシートを記入します。単元終了後に、どのようなことを学んだか共有をします。また、学習アンケートを行い、市内ALTを関わらせた課題の設定が、主体的な活動につながっていたかを検証します。

② 児童生徒が自己選択・自己決定する学びの保障

【自走する力】

【学びの現在地を評価する力】

児童の興味・関心に沿って課題を選択できるように学習課題を設定します。活動自体は、グループで行いますが、グループ内で個別の取組や協働的な活動を流動的に選べるようにします。自分たちの発表を評価し、伝え方や内容面に関してさらにブラッシュアップを図るために、グループ間の交流を設けます。

□場面・目的・状況の設定

- 英語を使う必然性
- 相手意識の向上
- 活動の目的・ゴールのイメージ



□個別と協働の流動的な活動

- 自分たちでテーマを選択
- 個別のアイデアを練る
- 構成や分担、内容の整理など協働作業



□グループでの練習を通して、ゴールと現在地の比較

- 自分たちの学びの現在地を知る



□ALTたちからのフィードバック

- 目的が達成できたかふりかえりや評価を行う
- 相手意識を持つこととパフォーマンス向上の検証
- 今後の活動にどう生かしていくかを考える



□発表を録画し、ALTに見てもらおう

- 自分たちの学習を評価



□他グループとの交流

- 多様な表現やアプローチに触れる
- さらなるブラッシュアップを目指して、自走する姿を期待

